

# 「中長期の支援必要」

## 地震 ソロモン

### 日本の被災地ギゾ島視察 代理大使

【ギゾ(ソロモン諸島) 6日共同】ソロモン諸島

沖地震の発生から五日目の六日、津波被害が最も大きかったギゾ島では、避難民のキャンプに食料などの援助物資が徐々に行き渡り始めたが、普段の生活を取り戻すにはなお時間が必要で復興への道のりは遠い。

日本の児玉紘一・駐ソ

ロモン臨時代理大使が同日、ギゾ島の病院や避難民キャンプなどを訪問し「日本政府が毛布やシー

トを緊急支援として贈ることを決めた」と説明。「復興のためには中長期的な支援が必要。草の根無償支援として病院の職員住宅を再建できると思う」と語った。

地元の当局者や赤十字によると、ギゾ島などがある西部県では、これまでに約四十人の死者が確認された。

西部県のロコピオ知事によると、医療品やテント、食料品などはまだ不十分。地元の赤十字

は同日、ギゾ島に次いで被害の大きかったシンボ島に初めて船でテントや食器、飲料水などを届けたが、食料品は不足しているため積みなかつた。

### A M D A が 調整員派遣へ

#### 寄付金も受け付け

南太平洋・ソロモン諸島沖で起きた地震と津波による被災者支援のため、国際医療ボランティア A M D A (本部・岡山

市樽津)は六日、オーストラリア人調整員ニティアン・ウィーラウアグさん(三〇)岡山市〇の現地派遣を決めた。

七日午後、同市を出発。オーストラリア・メルボルン経由で震源地に近いソロモン諸島西部ギゾに入り、不足物資の把握などを通して今後の支援策を検討する。A M D A は必要に応じて、医療チームを送る方針。

郵便振替(012501240709)で

寄付金を受け付けている。口座名はA M D A で、通信欄に「ソロモン地震」と記入する。

(臼杵正純)